

視点

子どもの関心に関心を向ける

帝京大学教育学部
初等教育学科子ども教育コース 講師
利根川 彰 博



幼稚園の暮らしの中で、子どもたちは日々、身の回りの何かに出会い、不思議さや美しさを感じ、そこから思考を深めていくという様子があちこちに見られます。クラス担任として長らく子どもと共に暮らしてきた私の耳は、幾つかの「キーワード」を反射的にキャッチしてしまうようになっています。その一つが「なんで〇〇なんだろう？」という言葉です。

9月初旬。台風が過ぎた後の園庭に、まだ実を落とすには早いドングリがたくさん落ちていました。年長組の女の子2人がその様子に出会い、「なんで、こんなにドングリが落ちてるんだろう？」と、つぶやきました。昨日までの風景との違いを感じてのことでしょう。

「なんで〇〇なんだろう？」という言葉は、その子どもがすでに「何か」に出会い、心を動かし、思考が始まっていることを示しています。その場に立ち会っていると、「さあ、ここからどんなことが展開していくのだろう？」と、ワクワクせずにはいられません。これが「子どもの関心に関心を向ける」という態度ですが、それが実感されるまでには時間がかかりました。

私が年長組を担当していたある年、クラスの子どもたちにこう宣言しました。「先生はね、みんながどんなことに『これ、おもしろい！不思議！なんだろう？』『こんなの発見した！』って思っているのか、知りたくてたまらないんだ。だから、おもしろいことを発見したら、先生に教えてね」と。

もちろん、態度からもそうしたことは伝わっていくでしょうが、よりはっきりと宣言することで、「なるほど。先生はそういうことが好きなんだ」と納得するようです。逆に言えば、そう宣言したからには、

私にとって「それって、本当におもしろいの？」と感じてしまうことにも、関心を示さなければウソになってしまいます。

ところが、子どもの発見してくるものの半分は、私にとって「つまらないな」と感じるモノでした。子どもたちは「思考」が始まる前の「出会い」を報告してくれるのですが、その段階では意味が分からず、「つまらない」と感じるものが少なくなかったのです。

しかし、報告してくれる子どもたちは本当に心が動いていて、とてもいい表情です。そこから、「なんで、こんな発見がおもしろいんだろう？」と、私の思考がはじまりました。

そして、発見したという対象がつまらないと感じられるモノでも、それを発見した子どもの心の動きはおもしろい、と次第に実感されてきます。するとどうしたことでしょう。はじめは「つまらないモノ」に見えていたものが、だんだんと魅力的に感じられてきます。こうなってくると、意識的に「子どもの関心に関心を向けよう」と考える前に、反射的に「つい、関心が向いてしまっている」という姿勢になっていくのです。すると、それが他の子どもたちの関心を引き寄せることにもつながっていき、やがて私たちは「発見の共同体」となっていくのです。

「幼児期の学び」を支える重要な点は、大人のこうした「子どもの関心に関心を向ける」態度であろうと思われます。もちろん、子どもたちにとって「心を動かす出会い」が生まれる環境を整えることも重要です。

その先にどんな実践が展開されるのかは、拙著『好奇心が育む学びの世界』（風鳴舎）をご覧くださいと幸いです。

第3回政令指定都市特別委員会研修会開催

11月19日東京・アルカディア市ヶ谷私学会館で第3回政令指定都市特別委員会研修会が開催され、全国から約130人が参加しました。まず始めに、四ツ釜雅彦全日私幼連副会長による開会あいさつ、前田元照全日私幼連政令指定都市特別委員会委員長による趣旨説明がありました。研修会の詳細は下記の通りです。

講座1：「幼児教育の無償化と新制度5年後の見直しについて」

全日私幼連政策委員会委員長 水谷豊三氏

講座2：パネルディスカッション「変化の時代、わたしの街の幼児教育～カタチにする力を考える～」
〔パネリスト〕

全日私幼連政令指定都市特別委員会委員
斎藤聖治氏

全日私幼連政令指定都市特別委員会委員
松尾創氏

〔コーディネーター〕

全日私幼連政令指定都市特別委員会委員
村上順滋氏



〔アドバイザー〕

全日私幼連政策委員会委員長
水谷豊三氏

パネリストによる発表のあと、質疑応答がなされ活発な意見交換が行われました。

最後に柿迫重正全日私幼連政令指定都市特別委員会副委員長による閉会あいさつで研修会は終了いたしました。



新しいものを見るたび、触れるたび、

目覚ましく成長する子どもたち。

子どもたちにとって、毎日が成長の舞台です。

育む環境で、子どもたちの明日は変わる。

だから、私たちは大切なことを「環境」から考えます。

好奇心や想像力、勇気や感動。

そして、子ども同士の関わり合い。

子どもたちが大切な時期に、確かな一歩を踏み出せるように、

最良な環境の未来をつくりあげていきます。

こども環境の未来をつくる



ジャクエツ

10月22日・23日、栃木県宇都宮市において開催された全日私幼連・第34回設置者・園長全国研修大会の2日目は「教育」「振興」「経営」「認定こども園」の各研究講座に分かれて行われました。今号では研究講座の概要をご紹介します。

研究講座1・教育

「幼児教育の質向上をめざして ～園内研修をてがかりにして～」

【第1部】 基調講演 『私立幼稚園に求められる課題について』

【講師】（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長 東 重満 氏

【第2部】 パネルディスカッション

【パネリスト】 全日私幼連教育研究委員会委員長 加藤 篤彦 氏

全日私幼連教育研究委員会副委員長 川原恒太郎 氏

全日私幼連教育研究委員会委員 熊谷 知子 氏

【コーディネーター】（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長 東 重満 氏

基調講演では、私立幼稚園に求められる課題について、平成29年12月8日に閣議決定された「新しい経済政策パッケージ」において示されている通り幼児教育の無償化は、幼児教育の質の向上が不可欠であるという認識の下に実施されるものであり、その質の向上に向けて総合的な取組みが急務となるとの説明がありました。①全ての子どもへの質の高い幼児教育の機会保証②研修体系・体制の構築（キャリアアップ研修、幼稚園ナビ活用による事務効率化、広域研修体制の整備等）③免許の上進④学校評価の普及（関係者評価、第三者評価、ECEQ等）⑤優秀な教員の確保（処遇改善等）⑥研究体制の強化充実 ⑦保護者等への幼児教育理解の普及⑧教育課程の編成力・発信力を高める基礎的取組⑨制度見直しへの提言等。

パネルディスカッションでは、幼児教育の質の向上をめざす手掛かりとして、園内研修の構築と実践にスポットをあて、3名の先生によるシンポジウムを行いました。第1ラウンドは、最初に加藤教研委員長より自園の実践の紹介と園内研修の構築と実践の意味についてのお話がありました。園児の育ちの記録はポートフォリオシート、クラスの育ちの記録はドキュメントシートという2つの側面から画像を

用いて園児の育ちを捉えており、また、園内研修において幼稚園教育要領を学ぶプロセスの一例を紹介しました。まず「要領」→「解説」を読み、実際に事例をもとに書いてみる事が大切とのことでした。園内研修の役割としては、他クラスの事例に皆で触れて共通の映像を皆で見ながら皆で書いた付箋を分類（考えて操作）しながら、多様な視点や共通の視点を見出すことが重要であり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の獲得のための園内研修において、保育者が「我が事として捉え、自分で使いこなすための営み」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の読み取りは、保育者が「これでいいのかな？」という心配から始まるとのことでした。記述の内容は単に上司の承認だけでなく園内研修を通して、実際に取り組んで、同僚の多様な視点に触れて、自分で見出していく事が大切とお話がありました。自分で見出したものは自分で修正ができるようになる事、引き出しを増やし、自信をもって書けるという事は、他者に説明ができるものとなっていくという説明がありました。次に熊谷教研委員より「保育を語りあう！保育を楽しむ！実践を目指して」をテーマに外部講師を交えた園内研修の実践例の紹介がありました。外部講師河邊貴子先生に直接保育

を見てもらい、自分達だけでは気付かない自園の良さや課題の発見等、検証を行いながら自園の保育実践を理論に結び付けて保育を説明する力を身につけていくことにより、自分たちの保育に自信を持ち自園の幼児教育の質の向上につながっていくと説明がありました。最後に、川原教研副委員長より「ECEQと園内研修の充実」をテーマに自園の幼児教育の質の向上を図るには園内研修の充実とカリキュラムの構築が必要との観点からお話がありました。ECEQを実施したことにより子どもの育ちと学びの共有や子どもの見取りの視点を学びあうことができ、教育保育の伝承につながることで、園内の問題点や課題が全員で共有ができ、同僚性が育まれること、また、教職員をカリキュラムに沿って話し合う事ができ、PDCAを繰り返していくことでカリキュラムが充実し、自園の幼児教育の質の向上につながっていることの説明がありました。

第2ラウンドは「充実に向けた課題」として、川原先生から伝え合う大切さと新任保育者のサポートの重要性、熊谷先生から保護者との対話の重要性が

らラーニングストーリーを通しての「保育の見える化」の大切さのお話がありました。加藤先生から「園内研修の実施が、保育の営みとして単なる自己完結してしまうものではなく、保護者や関係者への発信へと繋がっていくことがとても大切なことである」と最後に締めくくりのお話があり、研究講座は終了いたしました。



(全日私幼連教育研究委員会委員、北海道富良野市・慈恵ひまわり幼稚園／青木賢亮)

研究講座2・振興

第一部 「無償化にかかる私学助成園の諸課題と対策」 第二部 「私学助成園の処遇改善と私学助成金の増額を目指して」

【パネリスト】	文部科学省初等中等教育局幼児教育課長	先崎 卓歩 氏
	全日私幼連副会長	尾上 正史 氏
	全日私幼連政策委員会委員	吉田 宏道 氏
	全日私幼連政策委員会委員	境 信博 氏
【コーディネーター】	全日私幼連政策委員会委員長	水谷 豊三 氏

まず、文部科学省初等中等教育局幼児教育課先崎卓歩課長から初日の行政報告を掘り下げた説明がありました。幼児教育無償化は月額計算となるため、月25,700円(年308,400円)となります。ただし、無償化は来年10月からとなりますので、4～9月は従来の就園奨励費(最大308,000円の半額)

が給付されることになります。

無償化の国と地方との財源配分は今後検討されますが、もし地方が幼児教育・保育に投じている金額に現在より余裕が生じた場合、他の事業に使われることなく引き続き幼児教育の費用となるよう、団体活動が必要です。また、無償化となったことで幼児

教育予算が膨らみ、有効に使われているかどうかを見極める目が厳しくなります。既に自己評価は義務となっていますが、学校関係者評価や第三者評価を実施したり、教員の一種免許取得を進めたりしていくことも必要です。

無認可施設においては、現在届出をしていない施設が無償化の対象園となるための届出をし、有資格保育者の採用を進めます。それによって、今後さらに教員採用が厳しくなることが予想されます。また、3歳児の就園率が現在88%であることから、無償化による公立園の3歳児受け入れ増も考えられます。

保育料については、消費税が入るから値上げしますという理屈は通用しません。値上げの理由として、保育の質向上や優秀な人材確保などが必要です。また、自治体から値上げについての調査がある場合も考えておいてください。

最後に、保護者に対して幼児教育への理解を進め、各園の地道な取り組みを見える化していくことで、自治体はその園を中心に教育保育行政を考えるような存在になってください。

次に現場を預かる園長先生より報告です。最初は愛知県名古屋市の自由ヶ丘幼稚園の吉田宏道先生です。法人内の3園の内、1園を園児減少のため施設型給付の幼稚園に移行しました。市の定めた保育料に設定すると他の2園より保育料が上がる為、園独自で負担軽減を行いました。それでも私学助成と比べて、新制度の方が収入増となりました。また、処遇改善については、私学助成2園は無差別に改善できないため、差が出ない範囲で実施しました。その結果、新制度の園は処遇改善対象額まで引き上げる事ができず、加算給付は断念せざるを得ませんでした。

続いて、熊本県荒尾市の荒尾四ツ山幼稚園の境信博先生です。園児の減少と未就園児の預かりを独自に実施していたこと、また経営面の厳しさから、認定こども園に移行しました。その結果経費収入は2倍となり、施設整備・改修の円滑化や処遇改善によ

る教職員確保も進みました。しかし一方で、多量の提出書類に加え事務処理の煩雑さ、0～2歳児の保育者の採用難、加算条件への対応の難しさなど、問題もかかえながら運営しています。

これらの発表を受け先崎課長からコメントがありました。印象に残るお話は以下のとおりです。学校教育とは家庭ではできない教育を行うことです。そのために教員は免許を持っており、園庭や教具があります。そして、私立学校は私財を投げうって認可を受け開校しています。私学助成はそれらを一定保護する役割があり、それゆえ細かい積み上げではなく大まかに必要だと考えられる金額が補助金となります。一方の介護や保育は、本来家庭で行うことが前提であるものに公費を投入しています。それ故、細かな手続きが必要であり、加算や手当といった様々な給付があります。それぞれの特徴として、私学助成は伸びにくい落ちにくい。施設型給付は待機児解消という必要があり今は伸びていますが、待機児がいなくなれば、介護保険などと同じように減額となるかもしれません。

最後に担当副会長の尾上正史先生から、これからは教育・保育の質の向上を目指し、待機児が解消した後もしっかりと生き残れるように備えることが必要です、というお話がありました。



(全日私幼連政策委員会委員、大阪府和泉市・和泉緑ヶ丘幼稚園／奥野宏)

研究講座3・経営

「人材確保～幼稚園ナビならびに 各地域での教員採用事例を踏まえて」

【パネリスト】 全日私幼連経営研究委員会委員 末屋 保広 氏
全日私幼連経営研究委員会委員 友國 富夫 氏
全日私幼連経営研究委員会委員 佐々木慈舟 氏
【コーディネーター】 全日私幼連経営研究委員会副委員長 池田 清 氏
【情報提供者】 株式会社ブラテック代表取締役社長 岩崎 正明 氏

第2日目の分科会、研究講座3では「人材確保」をテーマに、全日本私立幼稚園連合会の経営研究委員のメンバー3名（末屋保広先生・宮城県 友國富夫先生・大阪府 佐々木慈舟先生・宮崎県）と幼稚園ナビの開発者・岩崎正明氏からの幼稚園ナビを活用した人材獲得についてプレゼンテーションを頂きました。

各氏の発表の概要は以下の通りです。

■末屋保広先生（宮城県）

自園の教員採用が近年困難化を極める中で、私学助成園に残りながら園独自の様々な処遇改善・働き方改革に積極的に取り組む様子を数多くの具体例を挙げながらご説明を頂きました。

■友國富夫先生（大阪府）

学生の保育園志向や幼稚園就職に伴う負のイメージ（一人担任・ピアノ・処遇・残業等）を一掃するために大阪府が学生の実態調査からスタート。人材は人財であるとの思いのもと教員の就職を促す諸活動（就職フェア、奨学金制度、インターンシッププログラム等）に加えて採用後の離職防止やキャリアアップに向けた若手・ミドルリーダー研修等を実施。人財を育てる大阪の豊富な事例を示して頂きました。

■佐々木慈舟先生（宮崎県）

宮崎県でも幼稚園への就職を希望する登録学生数の減少と保育士志向という危機感の共有に端を発し養成校キャラバン、合同就職説明（平成26年度より）がスタートします。宮崎県版専用アプリを通じて受験者登録を実施。「学生を真綿にくるむように」

対応するとの表現の中に宮崎県の人材確保に向けた思いの一端を伺うことができました。

■幼稚園ナビを通じた人材確保戦略

株式会社ブラテック代表取締役社長 岩崎正明氏 研修会一日目の全体会での「幼稚園ナビ」の進化に関するプレゼンに加えて分科会では個別具体的にナビの操作方法等多様な機能が付加されている点を開発者の岩崎氏よりご説明頂きました。新しく合同就職説明会や研修履歴の管理機能が付与されました。生涯にわたって活用できるアプリに育てていくために是非ナビの普及啓発にご協力をとの呼びかけがありました。

全国加盟園の先生方にご愛顧頂き人材確保という喫緊の課題に対し本アプリを通じて問題解決の一助にして頂けたらと存じます。宜しくお願い致します。



（全日私幼連経営研究委員会副委員長、神奈川県 藤沢市・ふじがおか第二幼稚園／池田清）

研究講座4・認定こども園

「認定こども園として無償化にどう備えるか？」

【パネリスト】	内閣府子ども・子育て本部参事官補佐		
	(認定こども園担当、子ども・子育て支援担当)	相原 康人 氏	
	全日私幼連副会長	安達 譲 氏	
	全日私幼連認定こども園委員会副委員長	石田 明義 氏	
	全日私幼連認定こども園委員会副委員長	濱川 喜亘 氏	
【コーディネーター】	全日私幼連認定こども園委員会委員	安本 照正 氏	
	全日私幼連認定こども園委員会委員長	濱名 浩 氏	

幼児教育・保育の無償化に向けて、認定こども園がどのような備えをすべきか考える講座でした。この講座には大会参加者の約半分の先生方が出席し、問題意識の高さが伺えました。

認定こども園委員会濱名浩委員長より趣旨説明があり、パネリストとして内閣府子ども・子育て本部参事官補佐の相原康人氏、全日本私立幼稚園連合会安達譲副会長、認定こども園委員会石田明義副委員長、同じく濱川喜亘副委員長、同じく安本照正委員より地域の実情や課題について説明がありました。

石田先生からは新潟県の状況、認定こども園移行率が全国6番目、幼稚園（14）・認定こども園（92）で106園に対して保育園723という保育園大国ということ、女性就労率も80%近くで保育の受け皿1歳児が右肩上がり3倍以上、人口減少で人手不足、2号児が増加し11時間保育の需要に保育者不足で、子どもの健康面・精神面の懸念など保育の質の低下等への提案がありました。

続いて濱川先生より、東京都独自の補助制度の区市による、また幼保による格差の問題をご説明いただきました。あきる野市では民間保育所に対する補助金交付要綱には市基準運営費、産休等代替費、市単独補助、サービス推進費が計上されている一方、幼稚園にはサービス推進費のみ。区市の制度の不透明性が移行が進まない理由。また無償化により基礎自治体の今までの市区単独補助金が浮いてくるので、例えば給食費・預かり保育の補助金など1号・2号の平等の新しい補助金制度の創設の必要性について報告がありました。

安本先生からは先行して無償化をした守口市の実例から解説をいただきました。無償化で2号に移行希望が増え、収入としてどのバランスがよいか。また保護者同意を得て特別徴収は遠慮なく取り、園舎建て替えや耐震化など設備投資も必要。自己評価や第三者評価で、自園の良さや強みを知り分析しそれを保護者にアピールすること。そして保育の質を高める旨の報告がありました。

安達副会長からは無償化と幼児教育の質という観点から、すべての子どもの幸せな幼児期を支えていくために市町村の代表として行政に働きかけ、様々な体験を試行錯誤しながら自ら考え主体性のある保育を提供し、先生も保育を楽しみ研鑽していくことで保育の質を高め、幼児期の教育の大切さを保護者にも伝えていくことが大切である。という助言をいただきました。

以上の発表を踏まえ相原参事官補佐より、認定こども園の現況、社会経済の動向、幼児教育の無償化、処遇改善・公定価格、制度施行後5年の見直し、質の向上などについて説明がありました。認定こども園は今年度6,000を超え、人口減少と少子化、女性の就業率に伴い1・2歳の入園者が増加。今後更に質の高い保育・教育を保護者に提供していくことで幼稚園由来の方に必ず有利になると期待。給食費等実費徴収での1号と2号との格差。満3歳児も無償化の対象。預かり保育は各園での1号から2号に移りたいという人のニーズを把握し、2号に移ってきたときの受け皿・職員の確保などの検証が大事。市町村は保育所等の利用者負担軽減のため国基準の

60%に軽減しており、無償化になった際にはその40%が浮く。市町村単独予算を積極的に子どもの政策に利用してもらうよう注視・要求する。処遇改善は他の産業よりも上回らないと東京など大都市圏に流れ人材確保が困難な状況に。預かり保育なども予約制にして事前に人数を把握できれば無駄な人員配置もなくなり事務的処理も楽。公定価格の適正化ということで財務省が認定こども園に対して黒字が出ているという疑問を持っているので、幼稚園がより質の高い保育・教育を提供し、地域の子育て支援活動を充実させていることをアピールしていくことが大切。など、お話をいただきました。

最後にまとめとして濱名委員長より以下の整理が行われました。1号子どもの預かり保育の償還払いを代理受容に基礎自治体に要望。2号子どもの割合が高くなると職員シフトがより困難になるが、ノーコンタクトタイムでの教材研究や親対応が生命線。求人難を乗り越えるためにも、園内風土の見直しが大切。研修やミーティングなど専門性を高め日々の保育の充実が求められる。学校教育としての幼児教育を専門にしてきたアドバンテージを活かす。保育の質をアピールするため、ドキュメンテーションや全日の公開保育 ECEQ を活用。自己点検評価は必ず、学校関係者評価ができるのは学校法人のみ。評価を公表していくことで保育の質をアピールする。便乗値上げが今後マスコミに糾弾される可能性あり。各園のガバナンスが今まで以上に問われている。等の説明がありました。

無償化に向けて、保育・教育の質をしっかりと担

保し見える化し、どんな変化にも対応できる組織づくりが重要だとこの講座から学びました。保育者が子どもを育てることに喜びを感じ、子どもと共に保育者も保護者も育っていくような教育・保育、子育て支援の充実を図り、どのような園にするか？子供をどのように育てていくのか？しっかりとした園の理念や方針が園と保育者、保護者と共有していくことが無償化までの備えといえるでしょう。また、市区町村の行政にも積極的に今まで保育所等に充てられていた単独補助金を引き続き、1号2号にイコールフィッティングの利用者負担金等の軽減に充当されるよう今のうちから要望を行うことも備えといえます。

我々の教育・保育の質の高さ、職員の同僚性の良さを更に地域社会に発信していくことが、無償化で選ばれる施設になっていくのではないのでしょうか。



(全日私幼連認定こども園委員会委員、神奈川県横浜市・はらのこ原幼稚園／石井和則)

平成30年度 地区教研大会概要

東北地区 教員研修大会

岩手県・一関市／10月19日・20日

大会テーマ 「子どもたちの今と未来の幸せを願って」

～一人一人の豊かな育ちを支える質の高い幼児教育を～

第33回東北地区私立幼稚園教員研修大会は、10月19日・20日の2日間にわたり岩手県一関市・奥州市を会場に開催されました。大会前日の雨で心配された天候も、当日は時折り青空が顔をのぞかせ東北各地からの参加者760名が参集しての大会開催となりました。

今回の大会を開催するにあたっては、会場を岩手県の県南の地、一関市と隣接する奥州市で開催できないだろうか、その検討から始まりました。一部の地域だけでなく県内の各地区が交代で公開保育を行い、岩手県内の「保育の質を高める」ことにつなげるために、今回は県南地区の協力を得てこの研修大会の計画が出来上りました。

大会の第1日目は東北地区教員研修大会の大きな学びの柱である公開保育を9園が担当、(そのうち1園はECEQ公開保育に取り組みました)午後は研究発表、加えて免許状更新講習の分科会1を含め10分科会が展開されました。

公開保育では室内・外で繰り広げられる子どもたちの遊びの姿からそれぞれが学びを深める貴重な時間でした。保育実践の中で、参加者の皆様に「良かったこと、共感したこと、気になったこと、気づいたこと、アドバイス等々」を付箋紙に書き記していただいたことで、たくさんの励ましと示唆をいただくことができ、公開園にとっては次へつながる大きな力となるお土産をいただきました。

午後の分科会では、テーマに沿っての研究発表と協議の時間が持たれました。事例を通して話し合い、分かり合うとても貴重な時間となりました。子ども理解を基に一緒に語り合い、新たな発見や気づき、

保育の質を高めるための道を探っていく機会として今後も積み重ねていければ幸いです。

また、それぞれの分科会に素晴らしい助言者の先生方をお迎えし、1日を通しご助言いただくことでさらに深まり、課題を持って次へ向かう意欲となりましたことは何よりの収穫でした。

2日目は一関文化センターを会場に全体会がおこなわれました。開会行事には、香川敬全日本私立幼稚園連合会会長の名代として尾上正史副会長が遠路を駆けつけてくださり、ご挨拶の中ではこれからの幼児教育の向う方向について示唆をいただきました。

記念講演では宮沢賢治記念館学芸員の牛崎敏哉先生から、「宮沢賢治の童話と詩の世界」の演題でご講演いただきました。37年という短い生涯の中で、決して作品が表に出ることも今日のように評価されることもなかった宮沢賢治ですが、賢治の生き方や作品に魅せられた人々の心の中で今も生き続けているのだということが牛崎先生のお話から伝わってきました。宮沢賢治が「理想郷・岩手県」の意味で使ったと言われるイーハトーブの地で“賢治の世界”に触れ、思いを巡らせたひと時にも感謝でした。

岩手の県南の地に集う東北地区の先生方の意欲と熱意でこの2日間の研修大会を盛り上げ、研鑽を深めていただきました。そして、この東北地区教員研修大会がさらに充実した学びの機会となりますようにと願いつつ、次年度を担当する青森県へとバトンをお渡しし、感謝のうちに本大会を終了しました。(一社)岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会副会長、盛岡市・聖パウロ幼稚園／坂水かよ)

公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

★平成 30 年度園長・リーダー研修会

全国から約 90 人が集まり 講義やグループワークが行われる



▲東重満（公財）全日私幼研究機構理事長



▲岩立京子東京学芸大学教授

11 月 21 日・22 日の 2 日間にわたり（公財）全日私幼研究機構の「平成 30 年度園長・リーダー研修会」が、1 日目は東京大学福武ホールラニングシアターにて、2 日目はアルカディア市ヶ谷私学会館にて開催されました。全国各地から約 90 人の私立幼稚園の園長等が参加し、講義やグループワークが行われました。詳細については以下の通りになります。

● 1 日目

まず初めに（公財）全日私幼研究機構加藤篤彦研究研修委員長より開会の挨拶が行われた後、「園長・リーダーの学びとは」をテーマに、（公財）全日私幼研究機構東重満理事長による講義が行われました。続いて、東京学芸大学岩立京子教授より「幼児教育における評価—何のために、どのような評価を行うのか—」をテーマに講義が行われました。岩立

保育力の向上のために

資質向上の取組の証明に

キャリアパスや免許更新のために
研修の記録を大切に残しておきましょう！

監修 公益財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

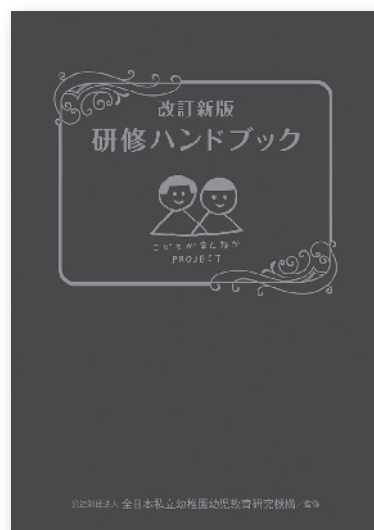
改訂新版 研修ハンドブック

4145301 **648 円**（本体 600 円）

●B6 判
●112 ページ

ご用命はお近くの書店、またはワンダー販売会社まで。

株式会社 世界文化社 ワンダー CS 事業本部
TEL03-3262-5128





▲野澤祥子 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター准教授



▲肥後功一 島根大学大学院教授



▲先崎卓歩 文部科学省初等中等教育局幼児教育課課長



▲岡健大 妻女子大学教授

氏の講義の後には「保育を語る組織を作る・チームビルド」と題し、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター野澤祥子准教授より講義がありました。最後に「日本の幼児教育の現在と未来」をテーマに、文部科学省初等中等教育局幼児教育課先崎卓歩課長より講義がありました。

研修会終了後には懇親会が行われ、参加者と研究者が交流を深めました。

● 2日目

午前中の研修では講師に島根大学大学院肥後功一教授を迎え、「遊びから学びへー改訂幼稚園教育要

領をどう実践につなげるかー①②」をテーマに講義とグループワークが行われました。

昼食休憩をはさみ、「カリキュラムマネジメント～園内研修を手掛かりにして～①②」をテーマに大妻女子大学岡健教授による講義とグループワークが行われました。

いずれのグループワークも参加者同士で活発な意見交換がなされました。

(公財) 全日私幼研究機構宮下友美恵副理事長の閉会のあいさつとともに、2日間にわたる研修会は終了しました。

CHAPPY 園児管理シリーズ クラウド対応

園児管理システム

パソコンでも
タブレットでも
使えます！



園長



先生

**出席の管理
未就園児管理
バスコース管理
承認機能完備**

パソコン内ではなく
データセンターでの
管理になるので
セキュリティに
優れています。

**個人カリキュラム
検査記録
課外活動一覧
指導計画**

園で役立つ機能が満載！ しかも簡単入力で時間削減。
チャイルド社の園児管理システムは、
忙しい先生を応援するためのシステムです。

開発・販売 株式会社 **チャイルド社** コンピュータ部

〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-39-11 TEL 03-3333-2345
ホームページアドレス <http://www.child.co.jp/>

私幼時報では、平成30年8月号から平成31年3月号の8回にわたり、平成30年1月28日に開催された全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・発達保育実践政策学センター(Cedep)共催シンポジウム「東アジアの保育・幼児教育改革～現職研修と評価を通じた保育者の専門性向上～」の内容を報告します。今号では、シンガポール教育省の就学前教育アドバイザーで、シンガポール社会科学大学の特任准教授であるスン・チー・ワ博士の講演を報告の第2回を掲載いたします。なおこの報告は便宜上一人称で書きますが、全て引用という訳ではなく、一部平林祥先生(大阪・ひかり幼稚園)が加筆・修正をしておりますことをご了承ください。当日配付されたスライド資料は、発達保育実践政策学センターのシンポジウム報告ページ(http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/project_report/symposiumseminar/sympo_20180128/)からダウンロードできますので、ご参照ください。

シンガポール教育省就学前教育アドバイザー、 シンガポール社会科学大学特任准教授 スン・チー・ワ博士／講演概要

シンガポールにおける保育実践者の専門性開発②

【園の専門性開発を支えるインフラ：SPARK 認証】

SPARK 認証についてお話しします(スライド13)。この制度ができて6年目になりますが、現在、1,800ある施設のうち約半分の800～900施設がSPARK 認証の最低基準をクリアしています。SPARK 認証は任意参加ですが、各施設が申請するのは二つの理由があります。一つは、国が設定したSPARK という基準に従うことが、園の質を改

善していったり、保育者の専門性を向上させていくときに必要だという実感があること。もう一つは、SPARK 認証を受けると、その認証の賞状を園に掲げることができ、ホームページに載せることもできます。保護者は、それを見て「ここはSPARK 認証を受けているから安心だ」と我が子の入園先を検討する際の判断材料になります。また、SPARK は運営とリーダーシップについても問う評価ですので、保育者が職場を探すときにも、人が足りない中で、

新 指導要録が“10の姿”の視点で書ける!

書ける! 伝わる!

幼稚園 幼児指導要録 書き方 & 文例集

平成30年度実施 CD-ROM 付き

無藤 隆 監修 / 大方美香 編著
定価(本体 2,200 円 + 税)

26×21cm / 192 ページ 978-4-8054-0277-1 #310350



- 新要録の基本がマンガでわかる
- 記入のポイントをしっかり解説
- 記入例と文例をたっぷり掲載

様式フォーマット、
記入例 & 文例入り!
便利なCD-ROM 付き

認定こども園、
保育所版も
好評発売中!!



保育の現場に寄り添って80年

チャイルド本社

〒112-8512 東京都文京区小石川 5-24-21
TEL. 03-3813-2141 FAX. 03-3814-3392

SPARK の認証を受けている園のほうが魅力的な就職先として選ばれる、ということで各園が申請を始め、半分が最低限のラインをクリアする現状に至っています。

SPARK は施設の様々な要素について評価する指標ですが、その中で保育者の専門性開発に関連するものとして、スライド 13 に挙げた 5 点があります。一つ目の職員研修では、新任保育者が働き始める時と、もう一つはずっと担任をしていた保育者が主任に昇格する等、同じ職場でも新しい職に就く時にイントロダクションして、その人たちがどのように働けばいいかを理解することをサポートする体制を構築すること。二つ目のメンターシップは、そういう新しい職に就いた人に支援やガイダンスを提供すること。三つ目の職員の配置は、保育者の能力や長所・短所に合わせて学年や役割を配置すること。四つ目の保育観察は、保育観察を通したフィードバックを上司がきちんと実施して分析し、どのように改善すればいいかを一緒に考えること。そして、五つ目は専門家としての学習と協働です。

【養成機関・研修機関の専門性開発を支えるインフラ】

保育者の養成や現職研修を実施する機関についても、基準が設定されています。養成機関に関しては、現在、乳幼児教育の研修認証基準があるのですが、項目としては、学生の入学要件、入学時の手続き、課程の認可、課程の内容、学生をどう評価するのか、指導の質をどうやって評価するのか、設備や資源に関する基準を養成各校に設定しています（スライド 15）。

研修の提供者は 2 つのカテゴリーに分類されます（スライド 14）。一つは政府直営の PSEI (Post-Secondary Educational Institutions) という専門学校のような研修機関と、もう一つは民間の研修機関である PTA (Private Training Agencies) です。以前は民間の研修機関が非常に多くあったのですが、政府直営の研修機関が増えてきたこともあって統合が進み、現在は 3～4 の民間研修機関があり

ます。その他に、総合大学と、準国立のような研修機関があります。PSEI と PTA の両方とも政府から助成金をもらっていますが、額は違います。民間の研修機関である PTA については、質がどのように評価されたかに応じて助成金の額が変わります。PTA には ECDA (= 乳幼児期発達局。前号を参照) が 2 年に 1 回監査に入り、その質を担保しています。

新しい取り組みとして、政府直営か民間にかかわらず全ての施設を集めて、国として現職の保育者の研修機関での取り組みをまとめる動きが出ています。以前は、各研修機関ごとにそれぞれの子ども観や保育観に基づいて授業や講義を実施していました。前提となる基盤において多様性があり、一堂に会してもそれぞれの子ども観や保育観がバラバラで話が噛み合いませんでした。しかし、シンガポールが国として教育研修機関の統合を進めていくことで、シンガポールの幼児教育についての理念や方針をみんなが共有した上で、幼稚園・保育所教師の養成は今後どういうふうにしていくべきかという話し合いを進めることができるようになって期待しています。

【保育者資格】

シンガポールでは、10 年間の義務教育の後に GCE (General Certificate of Education = 一般教育修了) を受けます。その成績に応じて専門学校や短大などに進み、人によってはそこからさらに四年制大学に進学します。専門学校は、実践的な技能に焦点を合わせていて、3 年の学習を経て学位を得ることができます。その学位を取得後に四年制大学に進む場合、本来であれば 4 年勉強するところを 3 年に、あるいは 3 年勉強するところを 2 年にというふうに、1 年短縮して学位を得ることが可能になります。例えば、L2 という「乳幼児教育・保育に関する学位」を取得した保育者は、その資格によって 18 カ月から 6 歳までの子どもを保育できます（スライド 16）。その人が、もう少し低月齢の乳児を保育したければ、それに加えて EY1 という「乳児保育に関する上級資格」を取得することで、2 カ月

から6歳までの子どもを保育できるようになります。

現時点では80%の保育者が3年間の専門学校で取れる学位を持っています。政府として非常に注力しているのは、保育専門学校の養成課程自体の質を上げること、現職の保育者が保持している学位あるいは学位号を高度化したいという強い狙いはありません。ただ、特に若い世代はより上級の資格、学位を取っていく意欲がある人が多いようです。

【政府が提供する研修】

ECDAでは、保育領域の研修について、毎年実施される研修の約80%を計画・運営しています（スライド17）。その研修の課程は、スキルの枠組みと一致させること、実際に働いている保育者のニーズに基づくこと、の2点に沿って構成しています。研修にかかる費用は、参加者が全負担額の10%を参加費として払い、残りの90%は政府が負担しています。

【体系的な専門性開発プログラム（PDP）】

ECDAでは、PDPというプログラムも設定しています（スライド18）。これに参加するためには、リーダーも乳児保育者も幼児保育者も、一定の要件を満たして受講の権利を得る必要があります。PDPは、3年間・計180時間の研修で構成されており、参加することに金銭的な報酬が付随します。3年間のプログラムを受講する間、1年目にS\$（シンガポールドル）3,000、2年目にS\$4,000、3年目にS\$5,000が報酬として得られます。平均的な保育者の月収は約S\$3,000なので、これは少なからぬ額です。政府の中には、必ずしも金銭的報酬は必要ではないのではないかという意見もありますが、保育者の給与水準は他業種と比べて低いことを鑑みると、それだけ頑張って研修を受けて自分の専門性を開発しようとしている人に対して、いくらかの金銭的な報酬があってもいいのではないかと私は考えています。

PDPにはリーダー層を対象にしたものと、幼児保育者を対象にしたものと、乳児保育者を対象にしたものと3コースあります。どのコースにも共通する要素があります。一つ目は、コースを受講して講義やワークショップに参加する。二つ目は、それを自園の同僚と実践する。三つ目は、アクションリサーチを行って、こういうふうになればこういうふうになるのではないかとという研究的・実践的取り組みを行うという3つの要素になります。私たちは、継続的な専門性開発において、理論を実践に結び付けることをとても大事にしています。学んだはいいけれども、それが実践に反映できない、というバリアを壊すために、このような取り組みをしています。

【政府の助成を受ける民間事業者の研修】

核となる事業者、あるいは連携する事業者として多額の助成金を得るためには、達成すべき目標が政府から設定されています（スライド19）。例えば教員の研修の時間、地域との連携、地域に対しての活動、保護者に対する働きかけを一定時間やるという要件がクリアできなければ、補助金が削られてしまいます。その要件の中に先生の研修受講に関する目標設定もあり、それに見合わない場合は罰則が適用されることになります。例えば時間に関しては、全ての保育者が毎年最低20時間、研修を受ける必要があります。本来であればもう少し高い水準に設定したいのですが、保育労働人口が不足している状況を鑑みて、泣く泣く20時間に調整しています。

【リーダーシップの開発】

ここからはリーダーシップの話をしていきます。リーダーシップにも段階があります（スライド20）。

一番下の階層から上へと昇っていくのですが、園長になる候補者、あるいは複数施設を持つ法人の本部職員などは、CPD（＝継続的な専門性開発）の課程やリーダーシップ会議、「保育リーダーの会」のイベント、資源などの研修を受けます。

リーダーシップシリーズとは、園長になる全ての人が任命される前に受けなければならない義務的な研修です(スライド 21)。これを全て終わると、幼児教育リーダーシップの学位を取得します。この一連の講座の構成要素は、スライド 22 に挙げました。多くの園長先生に聞き取り調査を行い、園長になる前に「判断を下すとかカリキュラムに自信がない」といったことに対して、このような研修やトレーニングをもっと用意して受講させてくれたら、私は園長としてもっと力を発揮できた、もっと良い園長になれた、という意見を集めて組み合わせることで、講座の構成要素を作りました。PDP と同じように、理論と方法についての講義を受けた後に、自園で実際に計画・実施・振り返り・記録作成をして、次の講義のときに他の参加者とそれぞれの取り組みを共有して振り返る、ということを全ての項目について行います。リーダーシップシリーズに参加してくる人たちは、当初、園長というのは園の中で孤独であるということ話をしながら集まってくるのですが、他の園の園長先生とワークショップを受けて、振り返りをしていく中で仲間集団ができていくと語っています。

リーダー層の PDP については、既に触れました。各施設の園長やリーダーになる人は、リーダーシップに関して継続的に専門性を開発する必要があります。

【ECDA フェロー】

現在、1,800 ある施設の園長のうち、最も優秀な 14 名を選抜して ECDA フェローに任命しています。ECDA フェローは、14 名それぞれが毎年 100 時間、ECDA の事業のために有償で働く義務があります。例えば、リーダーシップシリーズの研修では ECDA フェローがワークショップを運営したり、フィードバックをしたりします。その他にも保育内容の開発、あるいは、保護者とどのように関わることでより肯定的な関係を築くことができるか、子どもがよりよく育つか、保育内容の革新などの研究に関しても、ECDA フェローは ECDA と大

学、教育省などと連携して活動します。ECDA フェローは、ECDA と協働することで、自園のことだけでなく、シンガポールの幼稚園・保育所全体のことを見渡すようになり、ECDA と協力してシンガポールの幼児教育・保育の政策や動きを一緒に考え、現場の声をきちんと反映させることができます。

また、ECDA フェローは、保育領域に入ってくる若い保育者や実践者が「私もあのようになりたい」「私もあのようになれる」と憧れ、追いかけるロールモデルとしての役割も果たしています。若い保育者にヒアリングをすると、ECDA フェローが保育実践者あるいは園長として、どのような助言を受け、どのような経路を通してそこに至ったかを語ったことは非常に評判が良く、若者が「自分も将来こうなりたい」と目指すモデルとしてとても肯定的なフィードバックを得ています。

どうもありがとうございました。

(大阪府・ひかり幼稚園／平林祥)

幼児期における科学性の芽生えについて

(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
研究研修協力委員・縦断研究チーム 平林祥(ひかり幼稚園)

本報告について

砂場研究の中間報告第4回では、「幼児期における科学性の芽生え」について、映像記録の分析を通して考察したことを報告いたします。

筆者は、大学院まで有機化学を専攻していたこともあり、幼児教育現場における科学の取り扱われ方や、幼児期における「科学性の芽生え」について、入職してから断続的に考え続けてきました。(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の縦断研究チームに籍を置き、砂場研究に関わるなかで、「幼児期における科学性の芽生え」について検討した内容を中心に報告いたします。

幼稚園教育要領における「科学」

「科学」という単語は、改訂された幼稚園教育要領や幼保連携型認定こども園教育・保育要領には一

度も出てきません。関連する文言は、領域「環境」のねらいや内容の取り扱い、あるいは幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち(5)社会生活との関わり、(6)思考力の芽生え、(7)自然との関わり・生命尊重、(10)豊かな感性と表現などに含まれています。

幼児期における「科学性の芽生え」とは

測定可能性と測定原理の存在、再現性、反証可能性など、様々な科学の「要件」がこれまで議論し検討されてきましたが、そもそも幼児教育は科学教育ではないので、そういった水準で幼児期の育ちを検討することは難しそうです。ただ、好奇心や探究心、生命尊重などの個別技能と科学を関連づけて終わるのは、不十分に感じられます。

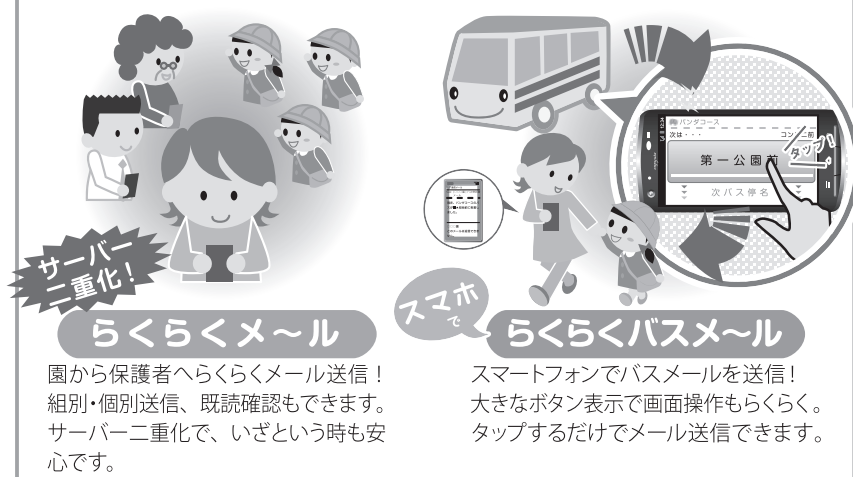
そこで、厳密には「科学」でないとしても、幼児

(株)学研教育みらい

東京都品川区西五反田2-11-8
幼児教育事業部

お問い合わせは
フリーダイヤル 0120-833-415

園ぴゅう太のメールサービス



サーバー二重化!

らくらくメール

園から保護者へらくらくメール送信! 組別・個別送信、既読確認もできます。サーバー二重化で、いざという時も安心です。

スマホで

らくらくバスメール

スマートフォンでバスメールを送信! 大きなボタン表示で画面操作もらくらく。タップするだけでメール送信できます。



**ぜ～んぶ学研に
おまかせ!!**

心機一転!
リニューアル

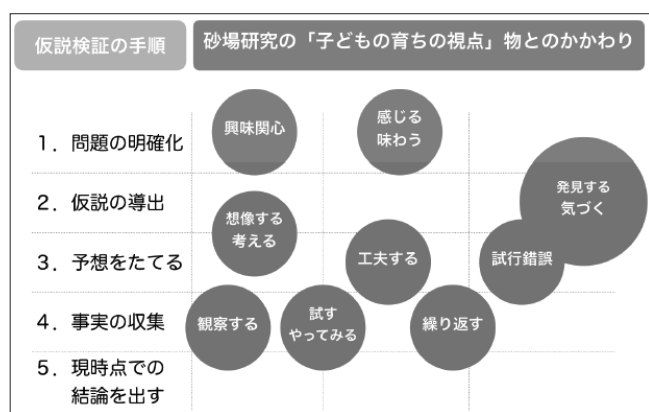
オリジナル!
**キャラクター
ロゴ**

Flashで
動画!

らくらくホームページ

目的やご要望に合わせて作成し、学研が更新もお電話・FAXで対応します。
「お知らせ更新は園で…」というご要望にもシステム併用でご対応いたします。

期における「科学性の芽生え」とでも呼ぶことができるような育ちを捉える手掛かりとして、科学的方法に求められるプロセスである「仮説検証」の手続きを検討しました。仮説検証とは、①検討したい問題を明確化し、②その問題についての仮説を設定し、③その仮説の真偽を確かめられるよう具体化した予想を立て、④実験や観察の実施を通して事実を収集し、⑤その時点での結論を出す、という手続きです。この枠組みに、砂場研究の分析の視点の一つである「子どもの育ちを見る視点」の「物とのかかわり」の9項目を当てはめてみると、思いの外きれいに収まりました（図1）。



▲図1 視点【物とのかかわり】と仮説検証の手順

子どもたちは、物とのかかわりのなかで、興味関心をもったり、様々な感触や感覚を感じたり味わい、そのなかで色々なことを発見したり気づくなかで、色々なことが気になります。そして、気になったことについて想像したり考えたり、「こうなっているのかな」と工夫したり、試行錯誤したり、あるいは「そうか！」と発見し気づくなかで、その気になったことへの仮説を導出したり、「そうであればこうなるはずだ」と予想を立てたりします。そして、実際どのようなものであるかを観察したり、試したりやってみたり、繰り返すなかで事実を収集し、その時点での結論にいたり、また新しいことが気になったり、仮説を修正していきます。そうしたプロセス全体を、子どもの「科学性の芽生え」として捉えられるのではないかと考えました。

たとえば、固めた砂山に先が開いた広口の容器を



中国四国 わかくさ幼稚園 7月 4・5歳児

▲あれ、噴火しない…？（写真1）



大阪 せんりひじり幼稚園 11月 3歳児

▲なんで曲がるのかな？（写真2）

埋め込み、そこに水を流し込んで噴火させようとしていた子どもたちは、「水を流し込めば、きっと噴火が起こるはずだ」と予想を立て、実験をしています（写真1）。「あれ、噴火しない…？」という発話の裏側には、彼らが過去の体験から仮説を導出し、予想を立てる力が育っている様子が見取られます。

また、直角につなげた樋に水を流し、そこにおもちゃを流す子どもたちは、先生と一緒に遊ぶなかで角をスムーズに曲がって最後まで進む船と、角に引っ掛かって止まってしまう船や列車があることに気が付きます（写真2）。ここでは、仮説の導出に至っている様子はいかがえませんでした。数十回にわたっておもちゃを流して「なぜ曲がったり、曲がらなかったりするのだろうか？」と問いを持ち、繰り返すなかで観察する姿が見てとれました。

前号（第3回）の報告で、同じ項目に分類される行動や動機でも、3歳と4歳、5歳によってその



九州 生目幼稚園 9月 3歳児

▲トンネル、掘るぞ！（写真3）



近畿 立花愛の園幼稚園 11月 5歳児

▲全員でつながった！（写真4）

内実が異なるのではないかと箕輪先生の考察がありました。「科学性の芽生え」についても同様のことが言えるのではないかと想像される映像が見ら

れます。同じ「トンネルを掘る」という活動にしても、トンネルを掘ること自体が実験である3歳児の姿（写真3）と、砂山をかつちり固めてトンネルの向きや深さを揃えればきっと4つがつながるはずと見通しを持って掘り進める5歳児の姿（写真4）は異なります。子どもの持つ「問題」や「仮説」、「予想」、あるいは「事実を収集」するための観察や実験の手段、その結果から導き出す「現時点での結論」などの妥当性や複雑性、明確性、多様性などに変化があると感じられます。

「見通しがついてきた」という言葉が、保育所では3歳児に対して、生活（既に経験してきたもの）についての見通しの文脈で語られるのに対して、幼稚園では5歳児に対して、あそび（今は存在しない、これから創り出すもの）についての見通しの文脈で語られることとの類似性も連想されます。

今後の課題

以上のように、砂場で見られる「幼児期における科学性の芽生え」について考察を進めてきました。ただ、本来は研究として、集められた映像記録や保育者の記録、学生の記録などの具体的なデータから、このような考察を裏付けていく必要があります。今後は、集められた記録の分析を通して、この「仮説」を検証していければと思います。

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に準じた指導計画

月刊 保育とキャリア

毎月2日 発売



ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表

幼稚園ナビ 新機能が追加されました!

- ご利用には幼稚園ナビ導入セット(右図)が必要です。お手元がない設置者様は、下記お問い合わせまでご連絡ください。
- 合同就職説明会機能や研修機能などこれから益々便利になりますのでぜひご活用ください。
- 研修申込みや免許管理など職員の方も普段使い出来るサイトです!



幼稚園ナビとは?

幼稚園ナビは、全日本私立幼稚園連合会が開発を進めている教員免許取得者の人材確保を目的とした幼稚園に関する求人・イベント情報・お役立ち情報を掲載した幼稚園に特化した全国版総合情報ナビサイトです。



幼稚園ナビの特徴

イベント・求人情報を
無料掲載!

1

求人情報の
簡単登録機能!

2

職員の研修・免許
管理機能搭載!

3

求人票 PDF の
自動作成機能

4

ハローワーク求人と
自動連携!

5

自園の魅力を
学生に発信!

6

詳しくはWebサイトをご覧ください

<https://navi.youchien.com/>



お問い合わせ

幼稚園ナビ サポート事務局
担当: 岩崎

☎ 093-647-7330
✉ support@navi.youchien.com

はまようのカリキュラムマネジメント

発表者：岡紗也子（はまようちえん）

関野純子（はまようちえん）

はじめに

はまようちえんでは、年間をⅠ期からⅣ期にわけて、各期ごとと年間のねらいを年齢別に作っています。また、子どもの育ちを標準的に捉えるために、ようちえんチームは『教育課程』、ナーサリーは『指導計画』また食べるの部門でも『教育保育課程』と『活動計画』を作成し、その都度見直しを行っています。チームのみんなでミーティングを重ねながら、カリキュラムを作り上げ、見直しを行うことが、「みんながみんなをみているひとつの家族」というはまようの「チーム保育」を支えています。

<かぞく懇談>

学期ごとに1回、保護者にねらいや
今の子どもたちの姿をスライドを使って
担任からお話する

ナーサリー

決まったねらいを
他の学年の先生にも共有

ナーサリー

午睡中、学年ごとに
現状（子どもの姿の写真）を
持ちより、話し合う

ようちえん

学年ごとに
現状（子どもの姿の写真）を
持ちより、話し合う



<予測・推測>

期のねらい（願い）をもとに
環境構成、活動、保育者の関わり etc...
→次の保育をつくる！

ようちえん

- 由起せんせい、ハタさん
ようちえんのかぞく担任でミーティング
学年ごとに、ねらいをプレゼンテーション
- みんなで、プレゼンを元に、
ディスカッション！その中でねらいを
練り直したり、共有したりする

ナーサリー

学年ごとに、
由起せんせい、ハタさんと MTG
ねらいをプレゼンテーション



ようちえん

今の子どもの育ちや課題点について、
前の期のねらいや教育課程と
照らし合わせながら見取る

ナーサリー

はまようちえんナーサリーでは、0, 1, 2 歳児
ワンフロアーで過ごしているので、
他の学年の先生からも違う視点の意見を
もらっている

<期のねらい振り返りシート>

1ヶ月に1度子どもの姿を振り返り、
"いま"の子どもに合った保育を
考え直す

ねらいづくりにつながる日々のコミュニケーション

EMT(Evening Meeting)

毎日、保育後の時間すぐに担任、フリーと秦（理事長）、由起（園長）で集まり、連絡事項や子どもの様子などを共有する。

ポートフォリオづくり

書きながら他の先生と子どもの見取りや保育のことを話したり先輩から新人に
アドバイスしたりする機会になっている。

ねらいづくりを通して良かったこと

- 育ちについての新しい定義付けが生まれる
ex. 各年齢ごとの生活のねらい できた(3歳児)→できる(4歳児)→できるかな(5歳児)
- チームのみんなでねらいを共有することで、
今の子どもにとって大切にしたい環境構成や援助が具体的にわかる
- 期ごとのねらいづくりを行うことで、
目の前の(その年度の)子どもに合わせて、保育内容や活動計画を見直している
- 新しい文化が生まれる

パディ

かぞく(クラス)は、3, 4, 5歳児混合。
3, 4, 5歳の3人組が「パディ」

いいところめがね

3学期にかぞく(クラス)一人ひとりに
フォーカスをあて、かぞくのみんなから
いいところのフィードバックをもらう

掟づくり

年長児で集まり、かぞく(クラス)の
問題について話し合い、解決策を練る。
それが、かぞくの約束事になる。

おわりに

私がミーティングで意見が言えるようになったのは...

毎日の EMT やねらいづくりなど、ミーティングを何度も重ねることで、
自分の意見や保育の見取りをみんなの前で話す機会がたくさんあります。
最初は上手いかわからないこともありましたが、何度か経験をしていく内に、
自分もミーティングで意欲的に意見を言えるようになりました。
今では、「自分の意見を言いたい!!」という気持ちが湧き上がって来るようになっていきます。
日常の中で「雑談」の時間がたくさんあることで、先生たちとなんでも言い合える関係になる。
なにを発言しても受け入れてもらえる安心感がある。1年目は無理に話すことを強要されない雰囲気である。
そういった風土が、ミーティングの場でも話しやすいと感じることへ、つながっています。

6年目 なほ

1年目としてのねらいづくりのいいところ

ねらいミーティングのなかで、先輩の先生や園長、理事長と一緒に保育観について話し合うことで、
自分が今の子どもたちにどう関わっていくべきなのかが具体的にイメージできます。
自分の子どもへの関わり方のバリエーションが増えることが実感でき、自分の学びになっています。

1年目 あきこ

ねらいづくりの難しさ

ねらいづくりをはじめて3年目。
まだまだねらいを言葉にするのが難しく悩んでいるのが本音です。
しかし、悩んでいるからこそ、他の先生にたくさん相談するなかで、
自分とは違った視点の子どもへの見取りを聞くことが出来たり、
難しく考えすぎている自分に気付いたり、
自分の思考が柔らかくほぐれていっていることを実感しています。

13年目せき

日本私立学校振興・共済事業団からのお知らせ

私学事業団では、さまざまな刊行物を発行しています。
幼稚園の教職員の皆様、ぜひ、ご活用ください。



●学校法人等向けに配付しています

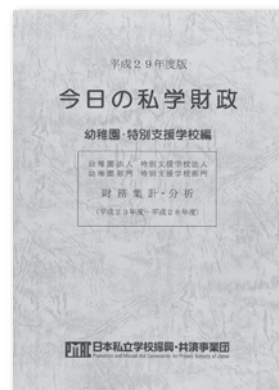
月報私学

今日の私学財政

刊行物については、
私学事業団ホームページ
(<https://www.shigaku.go.jp/>)
私学共済ホームページ
〔加入者用ログインページ〕
(<https://www.shigakukyosai.jp/>)
を合わせてご覧ください。



毎月発行
私学事業団からのお知らせや
連載記事等が満載です。
学校からの応募写真が毎号の
表紙を飾ります。



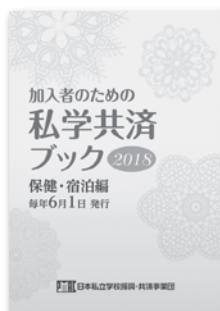
毎年発行
学校法人の財政状況について
集計・分析したものです。

●加入者全員に配付しています

加入者向広報
共済だより

レター

私学共済ブック



奇数月1日発行
私学共済制度に関するお知らせや、健康・旅行など、幅広いジャンルの情報をお届けしています。

「保健・宿泊編」毎年6月発行
日常生活や健康保持、レジャーに使えるお得な情報を掲載しています。

「給付編」隔年11月発行
私学共済制度のあらましと健康保険や年金の給付についてまとめています。

日本私立学校振興・共済事業団
企画室

〒102-8145 千代田区富士見1-10-12
☎ 03 (3230) 7809~7811
✉ kikaku@shigaku.go.jp

人材確保～学生へのアピール～

北海道の教員採用も年々厳しさを増すばかりです。学生に「選ばれる」立場になってしまった今、私立幼稚園や認定こども園への肯定的な理解を促すために、北海道私立幼稚園協会が平成26年度から行っている事業が「幼稚園・認定こども園キャラバン」です。学生のホームグラウンドである養成校の授業の場に直接出向いています。

内容は、園長と現役の先生数名で訪れ、90分間の授業の中で「幼稚園教諭・保育教諭の仕事の魅力」を伝えるとともに、近年の待遇向上や労務管理の改善などについても話します。現役の先生は、学生が近い将来の自分と重ね合わせることができるように、その養成校の卒業生でキャリア5年程度以内の先生に参加してもらっています。今年度からはグループディスカッションも取り入れ、「何を基準（軸）にして就職先を選べばよいか」「保育の仕事の魅力って何だろう」などをテーマに、少人数で話し合う機会も設けています。学生からは、「休みはとれる？」「残業や持ち帰りの仕事は？」「ピアノが弾けないとダメ？」「職場の人間関係は？」「保護者対応は？」といった質問を受けますが、学生たちの生の声を聴くことによって、私たちにとっても学びや気づきのあるキャラバンです。昨年度は10校（学生約630名参加）、今年度も現在9校で実施しています。今後は、この事業の効果測定もしながらより実りのあるキャラバンにしていくだけでなく、養成校と連携して中学・高校の授業に出向くことも検討する必要があります。全国の先生方とも情報交換し、よりよい人材確保のあり方を探っていきたいと思います。

（（公社）北海道私立幼稚園協会経営研究委員長、札幌市・大通幼稚園／藪淳一）

子どもを取り巻く現状と課題

島根県は私立幼稚園9園の極小県です。しかし、島根県は子どもに対する情熱と愛情はどこにも負けないと自負しております。県独自で幼稚園教諭の資質向上に向けて、保育公開研修は素晴らしい成果を挙げております。

子どもを取り巻く環境は今のままでいいでしょうか。本気で子どもが大切にされ主役になっているのでしょうか。私たちは本気で向き合っています。『教育』という子どもにとって最も大切な営みが崩れようとしている今こそ本気で『教育』に向き合わなくてはならないと思います。子どもが心豊かに育つために私たちの責任があまりにも大きいことに気づかずにはおられません。

幼稚園がもつ最大の教育の意味の中に子どもが育つエネルギーが詰まっています。子も親も育つための幼稚園がもっともっと必要とされなければならないと思います。長時間保育、病児保育、休日保育等は、子どもの心の育ちにどのような影響を与えているのでしょうか。確かに働くみなさんにとっては必要でしょう。しかし、子どもたちは置き去りになってはいないのでしょうか。「幼稚園」としての役割をしっかりと果たなければならないと考えます。子どもは確かな教育を受けることで変わってきます。子どもを理解することで親と分かり合える瞬間にもなります。それは、子どもの心が安心と信頼に変わるときでもあります。『幼児教育』その奥深さに気づき、子どものための教育を実現したいと願うのです。

島根県私立幼稚園職員一人ひとりはいくつから資質の向上をめざし力強く歩みを進めていきたいと誓い合っています。

（（一社）島根県私立幼稚園連合会理事、出雲市・認定こども園北陵幼稚園・保育園／長島一枝）

編集後記

近くの公園を通過して登園するKちゃんは、毎朝「園長先生、はっぱあげる。」と言いながら登園してきます。「あら、今日の葉っぱはちくちくしているね。それと、昨日よりちょっと大きいね。似合うかな?」と言いながら胸ポケットに差します。そんな私をうれしそうにみて「いってきます。」と元気に保育室に行きます。

そんなKちゃんが先日「園長先生、もう葉っぱはないよ。」「あれ・・・?わかったよ。」と答えながら、そろそろ枯葉になって葉っぱも見つからない

のかな?とその時は思いました。帰りにお母さんが来られて、「園長先生、子どもの言うことは本当です。葉っぱは拾わないと言っています。いつも子どもの葉っぱを受け取っていただきありがとうございました。園長先生にあげるのがうれしくて幼稚園に来ていました。今はもういいそうです。」

きつとうれしいことが見つかったのですね。自信に満ちたKちゃんと我が子の育ちをきっちり待ってあげたお母さん、どちらもえらいなあ……

(調査広報副委員長・光岡美恵子)

第3回

こどもがまんなか PROJECT アワード募集中

全日私幼連・こどもがまんなか PROJECT では、「あれも、これも、だけどこれが一番!我が園自慢の‘こどもがまんなか’ポイント」と題して、昨年度に引き続き、こどもがまんなか PROJECT アワードを実施いたします。

各園自慢のこどもがまんなかポイントを本アワードに応募していただくことで再確認していただき、こどもに寄り添った園環境づくりをさらに推進していただきたいと考えています。応募締切は、平成31年2月28日です。

詳細は全日私幼連HP (<https://youchien.com>) に掲載しておりますのでご覧ください。

皆さまからのご応募、お待ちしております。

地域で愛される園になるためのサポートブック

園のリーダーのために 保育ナビ

管理職向け月刊誌

定価:本体価格926円+税
B5判 72ページ

2019年1月号の主な内容

- 特集1 保育者の隠された力が見えてくる 速報版! パターン・ランゲージを知っていますか?
豊富な実務経験のある保育者の経験知・実践知を園内で共有するための方法として開発された保育の「パターン・ランゲージ」。この方法を用いて「対話」することで共有しにくかった見えない力を共有していきましょう。
- 特集2 保育の新たな真を探る 子どもをめぐる環境が大きく変わるなか、これからの幼稚園に大切なことを小林研介先生(吞竜幼稚園園長)と渡辺真一先生(初音丘幼稚園園長)のお二人に語り合っていました。(対談実施2018年9月)
- 中堅職員育成法 ～セカンドリーダーを育て、活かす! 仕組みづくり・組織づくり～ タイプ別・中堅職員へのアプローチ法4回目の今回は、いわゆる「お局様」的職員を頼もしい味方に変えるための方法を探ります。その能力と影響力をポジティブな方向に発揮させる方法とは……??



ISBN978-4-577-81442-0 721

本社:〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <https://www.froebel-kan.co.jp>
ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 保育事業部営業本部まで

キンダーブックの **フレーベル館**